

全労金2017春季生活闘争ニュース・第14号

全労金「第1回災害からの復興・再生集会」を開催しました！ 全労金「連帯カンパ」へのご協力ありがとうございました！

◎全労金「第1回災害からの復興・再生集会」を開催しました。

全労金は、3月18～19日、福島県内で「第1回災害からの復興・再生集会」を開催しました。集会は、2016年度運動方針で「原発のない福島を！県民大集会」への参画を確認したことを踏まえ、中央執行委員会で具体的な検討を進めた結果、県民集会への参画だけでなく、被災地視察も含めた集会を開催することとしました。また、集会は、次年度以降も「震災を風化させない取り組み」として、これまで大規模な災害によって被災した地域で開催することとしています。

1回目となる今回の集会は、各単組から1名の参加者と全労金四役、東北労組役員をあわせて合計22名で開催しました。3月18日（土）は、開会集会の後、原発のない福島を！県民大集会実行委員会が主催するシンポジウム「原発災害から6年 被災地の暮らしと未来」と県民大集会に参加しました。シンポジウムでは、2015年9月5日に避難指示が解除された「楢葉町」の復興推進課長から、「震災から4年で避難指示が解除されたものの、現在の帰町者数は424世帯781人で帰還率は1割。震災直後は7割の方が帰町したいと言っていたが、2016年1月の調査では約半数に減っている。楢葉町としては2017年春を帰町目標と位置づけ取り組んでいる」等が訴えられました。

また、3月19日（日）は、福島県教職員組合が主催するフィールドワークに参加しました。フィールドワークでは、2017年春に避難指示が解除となる「飯舘村」「浪江町」「富岡町」等の学校や駅、街並み等を視察した他、「帰還困難区域」に指定されている国道6号線等、「福島第一原子力発電所」を横目に走行しました。「帰還困難



区域」は、他地区とは異なり、手つかずの状態のまま、震災以前は「水田」だった土地も人間の身長を遙かに超える草木に覆われていました。また、福島県教組の方の計らいにより、震災以降、営業再開できていない東北労金富岡支店を車窓から視察することもできました。

2日間の集会を通して、春季生活闘争期間中でしたが、参加者からは「震災から6年が経っている



《他県では通常 0.1 μSv/h程度》

が、何も復興は進んでいないことを改めて知ることができた」「見て聞いたことを単組の仲間に伝え、今一度、自分たちにできることを考えたい」等の感想が述べられました。

全労金は、今後も全国各地で発生する自然災害等で被災した仲間や地域住民に「寄り添い」「復興を願い」「支援する」取り組みを継続します。

◎全労金「連帯カンパ」へのご協力ありがとうございました。

全労金は、2011年3月に発生した東日本大震災以降、全国各地で発生する自然災害や労働組合の社会的役割の発揮を迅速に進めること等を主な目的に、大震災を忘れないという思いを含めて、1月17日（1995年の阪神淡路大震災）から3月11日（東日本大震災）までを期間とした全労金「連帯カンパ」を取り組んでいます。

2016年度は、3月17日現在で 4,667,053円（※2015年度は 4,415,443円）を集約することができました。みなさんの善意は、「連合愛のカンパ」への拠出の他、熊本地震や自然災害の復旧・復興等に向けたボランティア活動への助成金、災害で被災された仲間への支援金等として活用させていただきます。

◎全労金結成60周年記念 統一行動「ありがと本」の集約結果を報告します。

全労金は、2016年11月18日で結成60年となりました。60周年の記念事業として「全労金の歴史」「子どもの貧困」をテーマとした統一学習とあわせて、労働組合の社会的役割を發揮する観点から、全組合員の参画による「統一行動」として、信託資本財団が実施している「ありがと本」の取り組みを展開しました。

各単組・各職場、様々に工夫した取り組みが展開され、本は11,157冊、DVDは 888枚、ゲーム 325個、その他（CD等）は 696個で、買い取り金額は 272,738円となり、全額が「NPO法人キッズ・ドア」に届けられました。単組からの報告では、「日本の子どもの貧困率が高いことや、親の年収が子どもの貧困に影響を与えていることに驚いた」「子どもの貧困は他人事ではない」「奨学金制度の改善やありがと本の取り組みも含め、労働運動の中で可能な取り組みは積極的に取り組む必要がある」「ありがと本は継続的に取り組みたい」等の感想が報告されています。組合員のみなさんの他、管理職を含む労金業態で働くすべての仲間のみなさんのご協力に感謝します。

全労金の2017春季生活闘争は、いよいよ第三次交渉期間（最終交渉期間）に突入しました。私たち労働組合には、春季生活闘争による労働条件の改善や組織内の取り組みだけでなく、社会的な役割の發揮も求められています。

全労金「連帯カンパ」、60周年統一行動、そして、「福島応援セット」等の取り組み結果を考えれば、全労金組織に結集する組合員の団結は「力強い」と考えます。

全労金が掲げる「運動の統一」、2017春季生活闘争で掲げている「統一闘争」を力強く進めていくためにも、組合員一丸となった闘争を展開しましょう！

※全労金ホームページも随時、更新しています！全労金で検索を！

以上